

福島大教育 栗原澄子

目的 安土桃山時代から江戸時代の武家衣服には、どのような種類のものがあつたか、それは、どのような形態で、どのような縫製方法であつたかをしらべる。

方法 久能山東照宮博物館に收藏されている『宝物目録』名では「直垂・鍔直垂・脚半」とされている遺品類6点を対象とした実態調査である。

結果 遺品6点は、直垂の上衣/裏と袴2点。鍔直垂の上衣/裏と袴1点。脚半/裏である。直垂3点は重要文化財、鍔直垂と脚半は、八代吉宗所用とされているものである。

裂地は、直垂3点は、いずれも無文紗。鍔直垂は表に赤地錦、裏に精好。脚半は、表に縹子、裏と紐に麻が使用されている。

薄浅葱無文紗の上衣と袴は、裂地も菊綴も同色であるので直垂の上下と考えられる。

直垂3点の菊綴は、丸八ッ打ちで、その形態は、いずれも古い様式を伝えているものである。

赤地環輪繫丸龍鳳凰葵唐花文散錦鍔直垂の上衣の形態は、水干仕立のものであり、袴は腰紐と四角襠には白生絹が使用された直垂の袴様式のものである。この上下は、『宝物目録』には鍔直垂とされているが、使用されている錦は非常に厚地であり、上衣の形態からいっても鍔の下に着用することは困難であるので、今後、多くの遺品調査により明らかにしてゆきたいと思う。